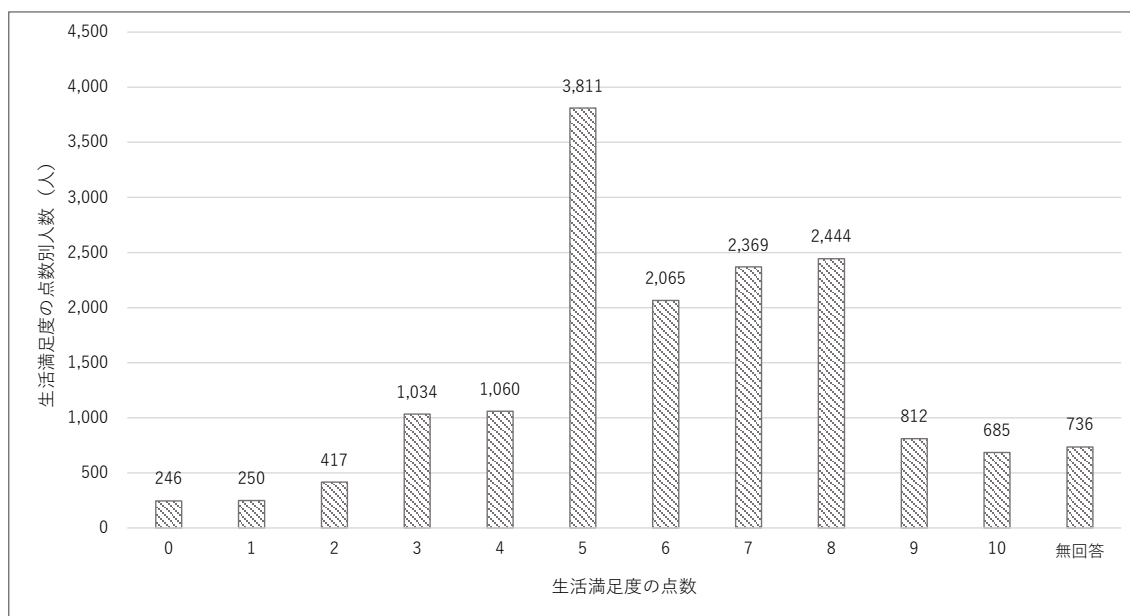


XVI 生活満足度、暮らし向き、余暇時間の状況

1 生活満足度の状況

個人票問 28 (2) において生活満足度について、「全体的にみて、あなたは今の生活にどのくらい満足していますか。0を「まったく満足していない」、10を「非常に満足している」とすると、どのくらいの数字になりますか(数字に0を1つ。)」として質問している。この結果を男女あわせて点数階級ごとに示したのが図表 XVI-1 である。5点と回答した者が最も多く、3,811人であった。ついで8点の2,444人、7点の2,369人、6点の2,065人と続く。合計15,929人から無回答の者を除外して点数分布から平均点を計算すると5.9点であった。

図表 XVI-1 点数別生活満足度



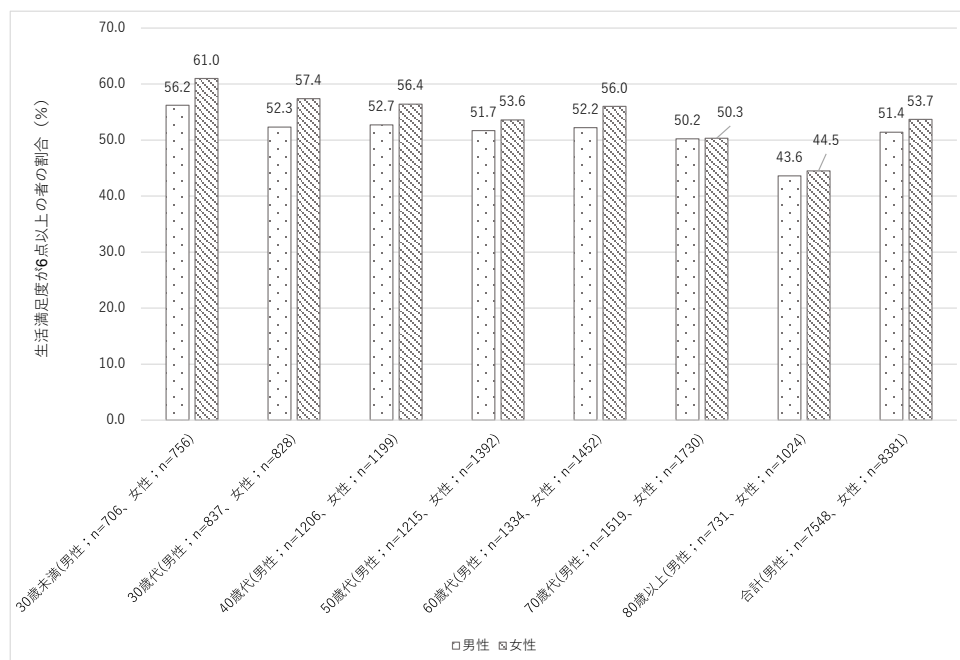
注：個人票により集計している。

性・年齢階級別に平均点 5.9 点を超えた人数、すなわち生活満足度が 6 点以上の者の割合を、相対的に生活満足度の高い者の割合、として算出して示したのが図表 XVI-2 である。男性全体：51.4%、女性全体：53.7%と女性の方が相対的に生活満足度の高い者の割合が大きかった。年齢階級別に見ると、男女ともに 30 歳未満においてその割合が最も大きく、男性では 56.2%、女性では 61.0%であった。80 歳以上は生活満足度の高い者の割合が最も小さく、男性は 43.6%、女性では 44.5%であった。

世帯票と個人票を接続し、世帯の所得階級別に相対的に生活満足度の高い者の割合を示したのが図表 XVI-3 である。全世帯平均で 52.6%であるが、第Ⅱ十分位にてその割合が最も小さく、36.1%と 3 人に 1 人程度であったが、第Ⅹ十分位にて最も大きく 75.6%と、4 人

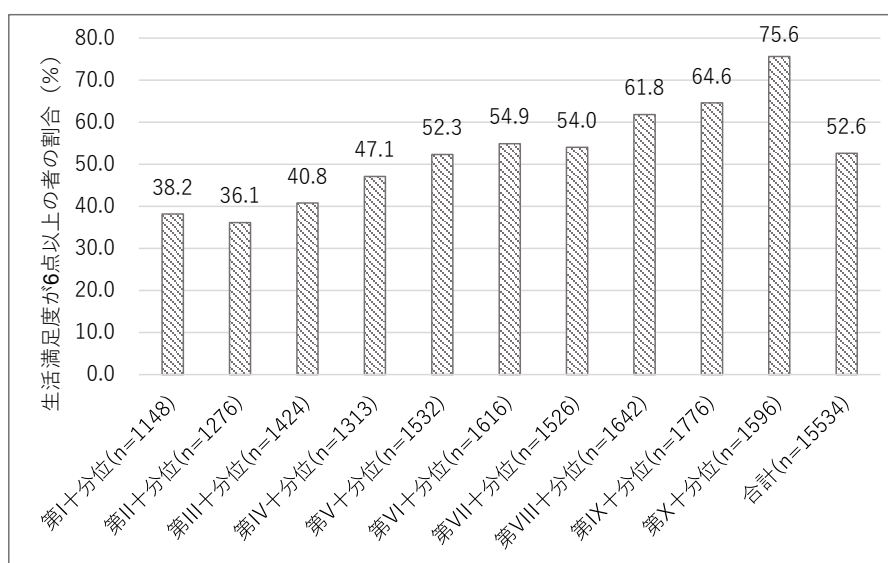
に 3 人の割合であった。第 I 十分位の方が第 II 十分位よりも相対的に生活満足度の高い者の割合が多く 38.2%であったが、所得が高いほど生活満足度を相対的に高く評価する者の割合が大きい傾向にあった。

図表 XVI-2 性・年齢階級別相対的に生活満足度の高い者の割合 (%)



注：個人票により集計している。分母に無回答を含む。

図表 XVI-3 所得階級別相対的に生活満足度の高い者の割合 (%)

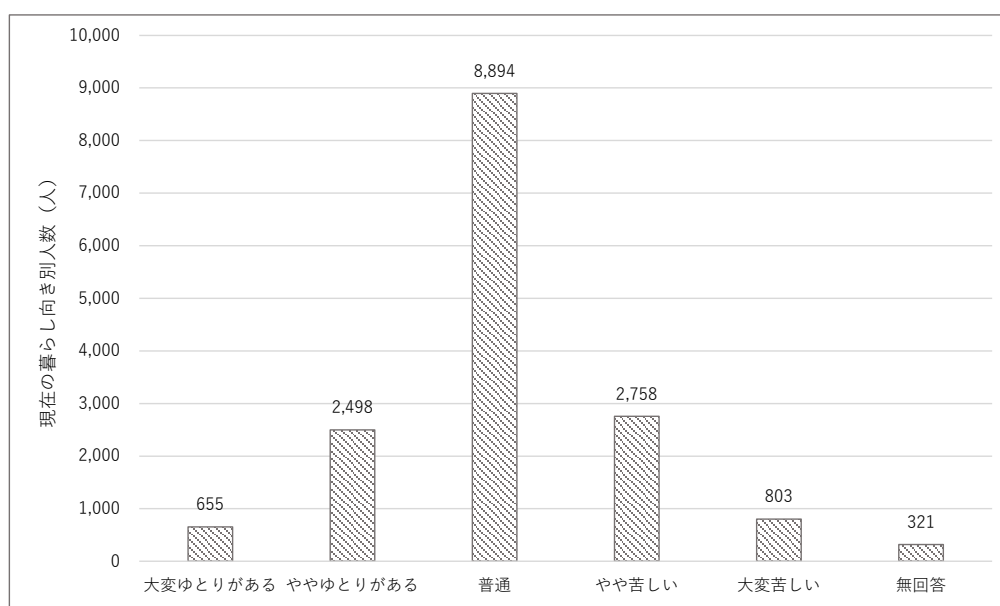


注：世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含む。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

2 現在の暮らし向き状況

個人票問18(1)①Aにおいて、あなたの現在の暮らし向きについて、1 大変ゆとりがある、2 ややゆとりがある、3 普通、4 やや苦しい、5 大変苦しいの5件法で質問している。男女計(15,929人)について無回答を含めてその回答状況を示したのが図表XVI-4である。普通と回答した者が最も多く、8,894人であった。ついで、やや苦しいの2,758人と続いた。男女あわせて「大変ゆとりがある」(655人)ないしは「ややゆとりがある」(2,498人)と回答した者の割合、すなわち相対的に暮らし向きが良いとした者の、無回答を含む全体(15,929人)に対する割合は19.8%であった。

図表 XVI-4 現在の暮らし向き状況 (人)



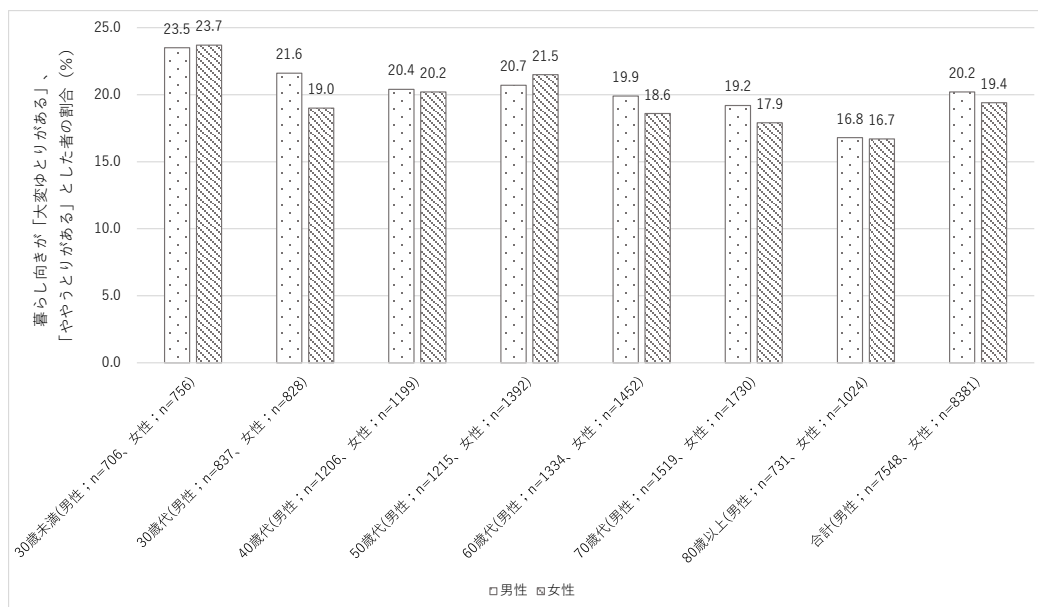
注：個人票により集計している。

現在の暮らし向きについて、「大変ゆとりがある」ないしは「ややゆとりがある」と回答した者の割合、すなわち相対的に暮らし向きが良いとした者の割合、を性・年齢階級別に示したのが図表XVI-5である。男性全体の平均は20.2%、女性全体の平均は19.4%であった。年齢階級別に見ると、男性では30歳未満で最もその割合が大きくなり23.5%であり、女性も同様に30歳未満で最もその割合が大きくなり23.7%であった。最も割合が小さいのは男性では80歳以上であり16.8%、女性も80歳以上であり16.7%であった。男女ともにおおよそ緩やかに年齢が高いほど相対的に現在の暮らし向きを良いとする者の割合が小さくなっていった。

世帯票と個人票を接続し、世帯の所得階級別に相対的に暮らし向きが良いとした者の割合を示したのが図表XVI-6である。調査対象者全体では相対的に現在の暮らし向きを良いとする者の割合は19.7%であった。最も割合が大きかったのは第X十分位で51.3%であり、半数以上が相対的に現在の暮らし向きを良いとしていた。次いで第IX十分位の28.8%であ

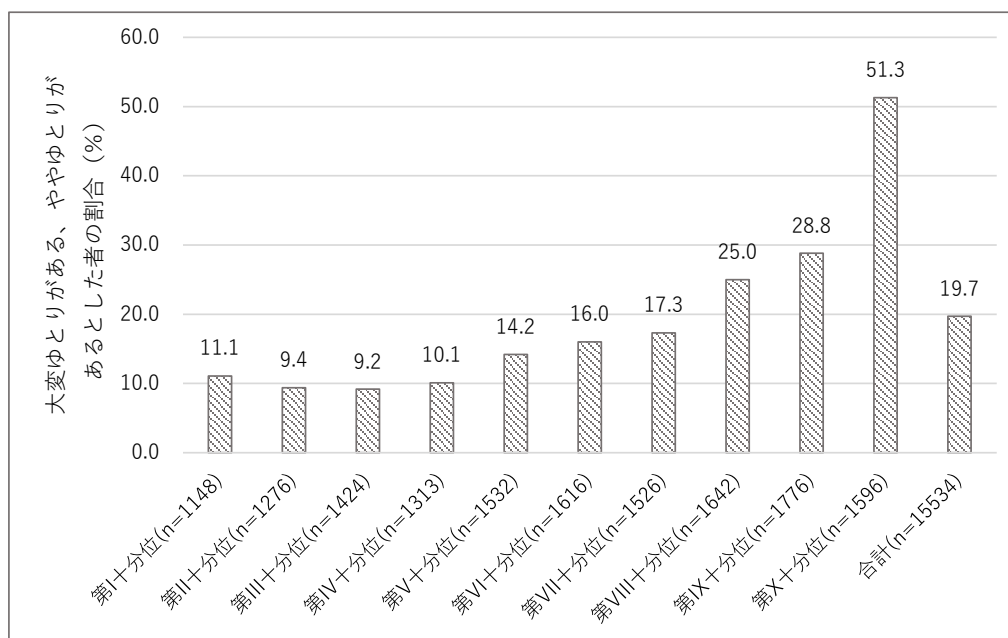
った。最も割合が小さかったのは第Ⅲ十分位で9.2%、次いで第Ⅱ十分位の9.4%、第Ⅲ十分位の10.1%、第Ⅰ十分位の11.1%と続いていた。

図表 XVI-5 性・年齢階級別相対的に暮らし向きが良いとした者の割合（%）



注：個人票により集計している。分母に無回答を含む。

図表 XVI-6 所得階級別相対的に暮らし向きが良いとした者の割合（%）

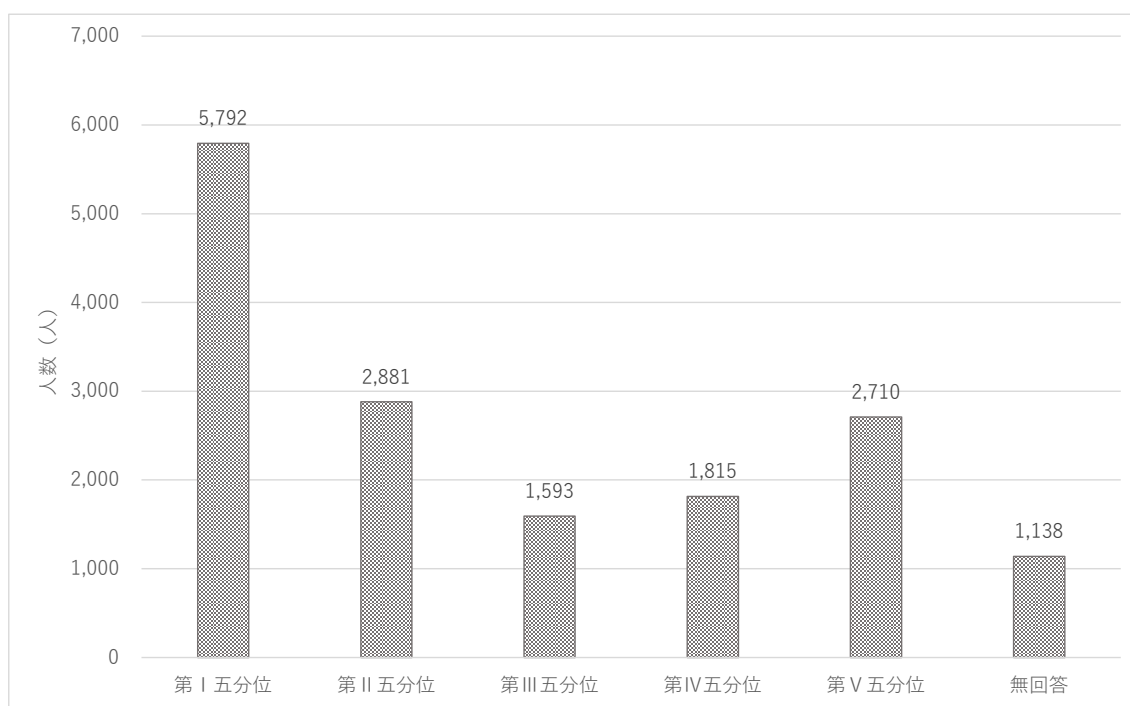


注：世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含む。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

3 余暇時間の状況

個人票問 23 において、「あなたは普段の生活の中で、趣味や余暇などリフレッシュのために自由に使える時間が、平均すると 1 日にどのくらいありますか。」と質問している。回答としては 0～24 時間が許容される。回答された余暇時間を五分位に分けてその人数分布を見たものが図表 XVI-7 である。余暇時間については特定の値に回答が固まる傾向があり、分位ごとの人数の偏りは除去し難いところもある。その上で、余暇時間が最も少ない第 I 五分位にある者の割合を性・年齢階級別に示したものが図表 XVI-8 である。

図表 XVI-7 余暇時間の階級別の人数（人）

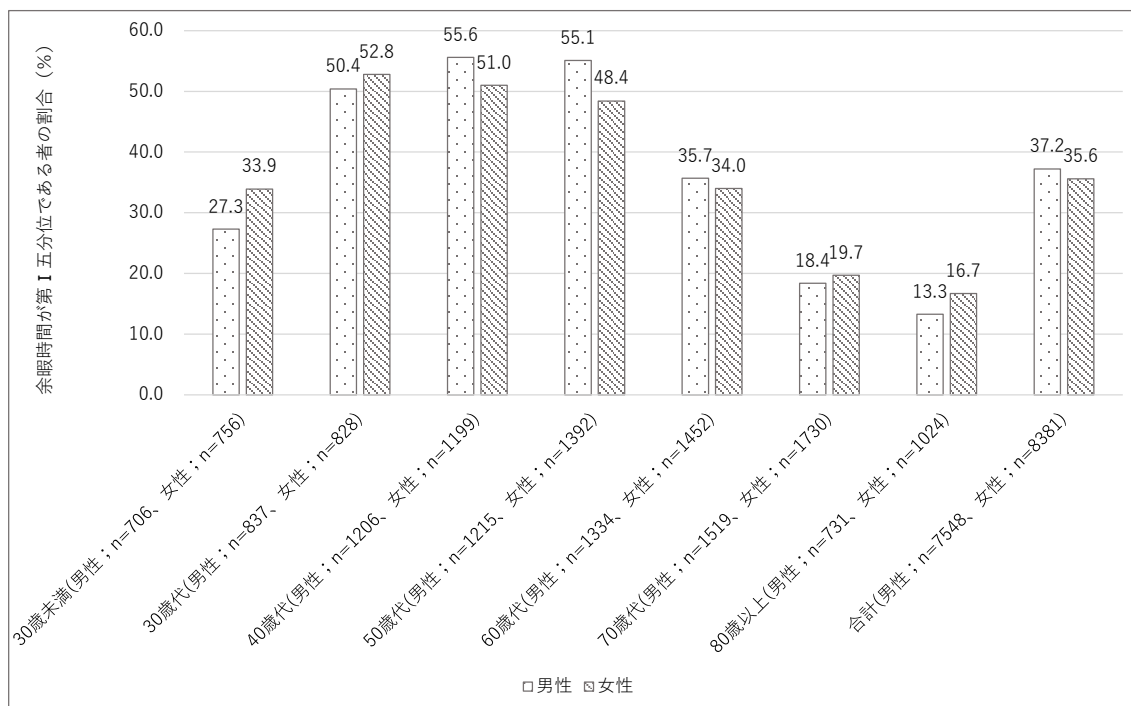


注：個人票により集計している。

余暇時間が第 I 五分位であることは余暇時間が相対的に短いことを意味するが、男性全体では 37.2%、女性全体では 35.6%が該当した。その上で、年齢階級別に見ると、男性では 40 歳代の者が最も該当する割合が大きく 55.6%であった。女性では 30 歳代で該当する割合が最も大きく、52.8%であった。男女それぞれその年齢よりも高い年齢では該当する割合が低くなり、80 歳以上では男性：13.3%、女性：16.7%となっていた。

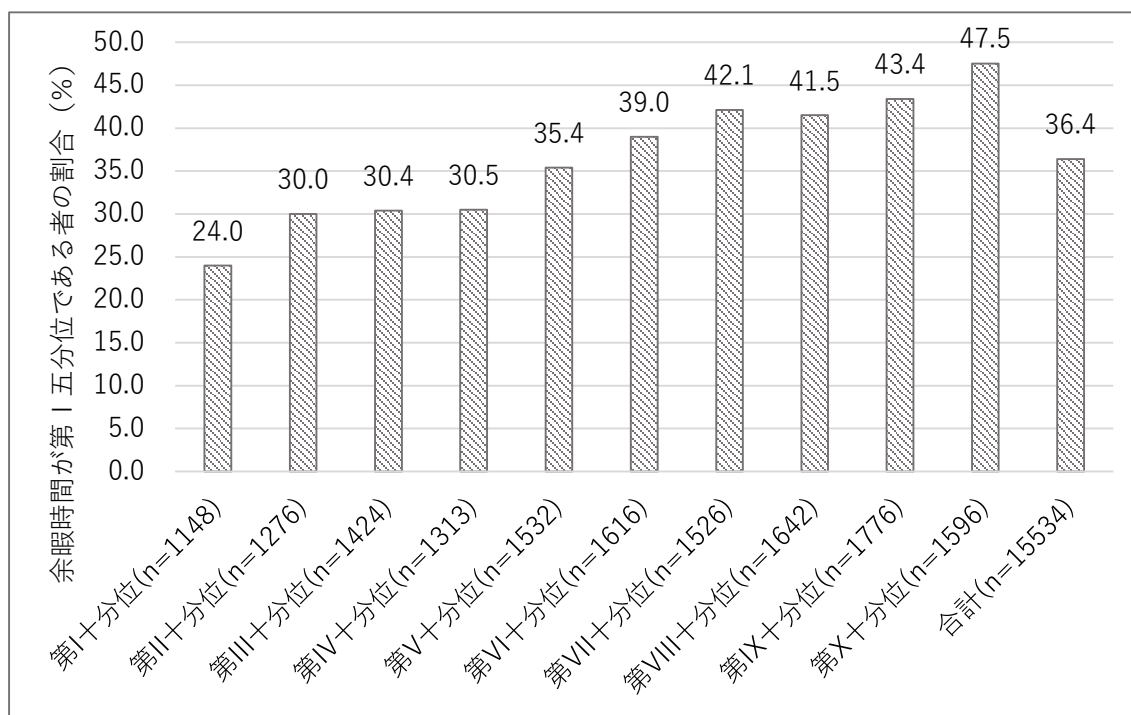
余暇時間が第 I 五分位にある者の割合を所得階級別に示したものが図表 XVI-9 である。全体の該当割合は 36.4%であった。最も該当する割合が低いのは所得階級第 I 十分位であり、24.0%とほぼ 4 人に一人が該当する状況であった。おおよそ、所得が高いほど余暇時間が第 I 五分位にある者の割合は大きい傾向があり、第 X 十分位では 47.5%と半数近くの者が第 I 五分位に該当する状況となっていた。

図表 XVI-8 性・年齢階級別余暇時間が第1五分位である者の割合 (%)



注：個人票により集計している。分母に無回答を含む。

図表 XVI-9 所得階級別余暇時間が第1五分位である者の割合 (%)



注：世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含む。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。